

アメリカ留学奮闘記

私はこのアメリカに留学したことが自分の人生最大のメインイベントだったのではないかと考えるほど短い期間の中、数え切れないほど多くの貴重な経験をしました。帰国して数か月経った今でも空白が見当たらないぐらいぎっしり書き込んだスケジュール帳や容量がいっぱいになるまで撮った写真、アメリカで購入したものや貰ったものを時々見てはつい昨日のようにアメリカでの日々を思い出しています。このレポートでは、自分のスケジュール帳を基に私がどのように留学の準備をして、どんなふうにアメリカで過ごしていたのかを報告します。

*～8月下旬（アメリカへ留学する前と準備期間）

私は前から留学への憧れはあったのですが真剣に考えるようになったのはアメリカコースを選択してからでした。それからは留学費用のためにアルバイトを始め、親や友人、留学経験のある先輩に相談しながら過ごしていました。アメリカ留学の本格的な準備は5月中旬からでした。毎週金曜日の5限に留学の説明やビザの手続きが行われました。一番大変だったのはビザ申請の手続きです。ビザ申請のために自分のクレジットカードを作成したり、大学寮に入る条件の予防接種を行ったりと決められた締め切りに追われるように終わらせていきました。私は高校の修学旅行時に作成したパスポートの期限が切れていなかったで作る手間は省けたのですが、日本では1回で済まされるはずのおたふく注射がアメリカでは2回必要だということで、小さい頃その注射を打っていない私は時間がない中で2回行わなければいけないのが大変でした。ビザ取得の最終段階は東京にあるアメリカ大使館での面接でした。英語でされる質問に答えなければならない、しっかり答えなければ取得できない場合もあると聞いて緊張しながら行きましたが、面接は想像していたものよりも簡単に流れ作業をするかのようにあっという間に終わってしまいました。（持ち物検査や待ち時間も含めて約40分程度）夏休みに入ってから英語の勉強に取り組もうと考えていたものの、実際は集中講義やキャリアケースと段ボールの荷物詰め、友人と遊んでいたらアメリカ出発はすぐ目の前で全然できませんでした。

*8月下旬（アメリカに到着からの大学でのオリエンテーション）

キャリアケースの重量制限、23kgを過ぎていないか不安で物を出しては入れたりしながら出発の朝を迎えました。これから本当にアメリカで過ごすなんて考えられず、飛行機を使って日本のどこかへ旅行にでも行くような気分でした。しかし飛行機内は様々な国の人たちが入り混じった空間でアナウンスも英語がメインだったのでそんな考えは一気に吹き飛びました。乗換地のミネアポリス空港についたときにはもう自分が英語の世界に飛び込んでしまったことが分かりました。周りを見渡せば外国人ばかりでお店も電子パネルも英語表記にアナウンスも英語のみ。英語は読めても全く聞き取れなくて夏休み中に英語を聞くことに慣れておけばよかったと後悔しました。留学先のノースウエスト・ミズーリ州立大学に着いたのは日が暮れた頃だったと思います。私は **South Complex** というアメリカの学生が多い寮でした。同室が友人だと分かって安心する一方、同室が外国人だと知って落ち着かない友人たちを見て、留学中にその同室と仲良くなって自分よりも英語力

がつくのだろうなと想像し、不安にもなりました。授業が始まる前のオリエンテーション期間は **Bearcat card**(大学内で使うカード)やパソコンの手続きに採血や髄膜炎のワクチンを打ち、大学内や授業の説明、クラス分けのテストなど大変忙しかつたです。決められたスケジュールを終わらせた後は友人と学内のイベントに参加したり、日本人ほぼ全員で学校から徒歩約 40 分の場所にある **Walmart**、**Hy-Vee** といった大型スーパーに行ってみたりと休む暇もなく楽しんでいました。しかし私はこのとき一つの問題を抱えていました。それは自分のスマートフォンだけ大学全体で使えるはずの **Wi-Fi** が接続できなかったことです。その **Wi-Fi** は大学での自分の **ID** とパスワードを入力すれば接続できるシステムでしたが、何度試してもできませんでした。留学経験のある先輩から大学内に **Wi-Fi** があるから機内モードにしたままそれに接続すれば海外使用での高額請求がなく使えると聞き、安心していたので予想外の出来事でした。英語もろくに話せない中、先生たちに説明するのも一苦勞で、やっと伝わったと思ったら機械に詳しい人たちの場所へと一人で連れ出されあちこちを転々とし、英語で色々聞かれても答える以前に聞き取れなくて泣きそうになりました。結局自分は大学全体の **Wi-Fi** に接続できないままでしたが、食堂がある **Union** や図書館などには入力システムなしの別の **Wi-Fi** があったのでそれを利用し、寮や教室では貸し出されたノートパソコンを使い、移動中は連絡手段がないので友人から離れないようにして、色々不便に思いつつも何とか留学生生活を過ごしました。

*9月

ESL の授業が始まりました。私は基礎中心の **B** クラスでした。授業や課題が難しい **A** クラスでもないし、留学生が多くて話せる場がある **Franken Hall** に住んでいるわけでもない、同室がアメリカ人でもない私は英語力が伸ばせないのではないかと焦っていました。 **Conversation Partner(CP)** の **Samantha** と会話できる **Conversation time** が唯一の英会話力を高められる場だったけれど、ちゃんと質問を聞き取れたか自信なくて一緒にやっていた同室の友人が答えてから答えていました。だから同じ意見だったときは **I think so.** としか言えず、英会話力が高まる手応えを感じませんでした。しかしその環境を変えなければいけないと考えることで自分は活動的になることができました。最初に挑戦したのは授業での発言です。日本での授業はあまり手を挙げて発言することがなかったし、アメリカで、更に英語で答えることなんて自分にはできないと思っていましたが、この 1 ヶ月の間で、それに対する緊張感もなくなり、答えが分かったらすぐに手を挙げて発言するようになっていました。英語でコミュニケーションをとれる機会を増やそうと考え、部活動にも積極的に挑戦しました。私は動物愛護団体のような活動をする **Advocates for Animal Awareness** (通称 **AAA**) と主に日本のアニメ好きが集まる **Anime club** に参加しました。 **AAA** は途中から行かなくなりましたが **Anime club** はなるべく毎週行くようにしていました。最初にアニメタイトルで多数決を取り、一番人数が多かったアニメを映画館のように部屋を暗くしてプロジェクターで見るのが主な活動で、英語が全く必要ないような部活でしたが **Lauren** という共通の趣味の友人ができてとても楽しい時間を過ごしていました。また、自ら挑戦したというわけではないのですが **FIS** の **Mike** さんと **Linda** さんのご夫妻との出会いはより私を活動的にしてくれました。火曜にはご夫妻のハーレーの後ろに乗せてもらってごはんを食べに行ったり、日曜には教会に連れて行ってもらったりと初めての体験だらけで日本の文化との違いを実感できる貴重な時間でした。私

は、教会は聖書の内容を静かに聞き、お祈りをするような場所だと思っていたのですが、連れて行ってもらった教会はそのイメージとは違い、バンドミュージック(ご夫妻の二人も演奏する側で Mikeさんはギターを弾き、Lindaさんはマイクを使って歌っている中の一人だった)に合わせてみんなで楽しく歌を歌うような教会でした。私はキリスト教ではありませんがその賑やかで心地よい空間がとても気に入り、曲を貰えるようお願いして寮で聴くようになりました。イベントでは Field trip があり、違うプログラムの留学生も含めて Omaha zoo や shopping mall に行きました。そして9月が終わる頃にはBクラスのみなどと打ち解けていたし、South Complex ではキッチンを使って日本食会を開き、トランプや UNO、人狼などのゲームもして、同じ日本の留学生同士でも仲良くなれたような気がします。



*10月

10月では ESL のクラスの環境や授業とテストのサイクルにもすっかり慣れ、CP の Samantha との話題は難しいものが多くなったので相変わらずもう一人の友人が答えてから自分も答えていましたが、I think so. で終わらせずに、辞書を使いつつも自分の意見を表現できるようになっていました。そしてこの月は民族衣装の Fashion Show、Anime club のコスプレ&ゲームのイベント Ani-con や卒業生を迎え入れるためにバラエティショーやパレードを行う Homecoming、各国の国旗を掲げるセレモニー Raising Flags に Halloween party などイベントがたくさんありました。私にとって Halloween が一番濃いイベントだったと思います。かぼちゃを彫ったり、CP の Samantha とお菓子交換に、仮装をして寮に訪問する近所の子どもたちを待ち構えてお菓子をあげたり、留学生で仮装をしてゲームをしたり、ある寮のお化け屋敷に参加したりとすごく充実していました。また、自分の FIS ではないのですが Mikeさんと Lindaさんと仲が良い Patさんの家にもお邪魔しました。そこはアメリカという広大な土地ならではの家でした。家の周りは芝生やとうもろこし畑が広がっていて、牛も犬も放し飼い。とうもろこし畑の大きいコンバインに乗せてもらったり、Patさんの安全な指導の下、ライフルを撃たせてもらったり、お昼には庭で BBQ をしたりとアメリカでしか経験できないような衝撃的なものばかりでした。



*11月

11月は2回目のField Tripがあり、留学前から気になっていたカンザスシティに行くことができました。そしてこの月で一番のメインイベントはThanksgivingです。Thanksgivingは家族や親戚と一緒に祝いするものですが、その前に友達と過ごすFriendsgivingというのがあり、私はSamanthaに誘われて彼女と同じ専攻の友人たちと食べ物を持ち寄り、ゲームをして楽しみました。一緒に行く友人とおにぎりやパウンドケーキを作ったのですが、Samanthaは元々おにぎりが好きだったのもあり、気に入ってくれて嬉しかったです。後日のConversation TimeではSamanthaがごはんを炊いてきて、図書館で一緒におにぎりを作りました。ThanksgivingはFISのMikeとLindaご夫妻のおうちに5日間お世話になりました。出会ったときから毎週おでかけしていたのもあって、数日間一緒に過ごすことに緊張はなかったのですが朝から夜まで一緒にいて、ちゃんと英語で会話できるのかは不安でした。しかしその不安はすぐに消えてPatさんも含め、毎日様々な場所に連れて行ってもらい、本当の家族のように楽しく会話をしていました。今まで色々お世話になっていたのが友人とThanksgivingの最後に日に日本食を作り、事前に作成していた手作りのアルバムを渡したらとても喜んでくれて、自分のホームステイ先がこの2人のところで本当に良かったと心から思いました。



*12月

Thanksgivingのおかげで、前より自信をもって英語で会話できるようになりました。留学の最初に感じていた不安はすっかりなくなり、これからもっと楽しくなるのだろうと想像していたので、この月で留学期間が終わることが信じられない気持ちでした。留学期間が終わるといことはお別れの機会もたくさんあるということで、最初のお別れはまさかのMikeとLindaでした。二人は冬になるとハワイの別荘で過ごすらしく、最後のご飯では来週もまた会える気がして泣けなかったのですが帰ってからじわじわと実感して、とても寂しい気持ちになり、泣いてしまいました。卒業式前は留学生のほとんどが先生方も含め、今までお世話になった人たちに何かしようと、Finalテストの勉強や荷造りと並行してプレゼントを作っていました。私はAnime clubのLaurenとCPのSamanthaのプレゼント作りをしました。(Samanthaのプレゼントは友人と一緒に作りました。) Laurenとはプレゼントを渡したときが今までで一番長く話していたのではないかと思います。色々話しました。今まで英語でうまく伝えられなかったものを伝える力がつき、更に仲良くなれた気がしてとても嬉しかったです。卒業式やパーティーは慣れないドレスを着て、たくさん写真も撮ってとても楽しかったけどPatさんとその恋人のMindyさん、Samanthaとの別れ際にはやはり悲しくなって泣いてしまいました。PatさんはLindaさんに電話もかけてくれて、泣きながらもハワイで再会する約束をしました。こんなにも温かい人たちに囲まれて卒業できたことはすごく幸せなことだと思います。



最初は自分の英語力に自信がなく、また、どうやってその力をつければいいのか分からなくて不安で一杯でした。最終的には自分の英語力の成長を実感し、もっとここにいたいと思うほど毎日を楽しく過ごすことができました。私が成長できたのは、ESLで分かりやすく丁寧に教えてくださった先生方に、うまく伝えられない自分を待ってくれて真剣に答えてくれた **Samantha**、アメリカでしか味わえないことをたくさん教えてくれた **FIS**の人たちや大学で知り合えた友人に同じ日本からの留学生、そして留学へ行けるよう支援してくれた家族のおかげです。今後もこの留学で終わらせずに成長し続けられるよう頑張りたいです。